

大規模地震災害に備え

生活用水の確保策を！



伊藤 良二
議員
西条自民クラブ



問

今夏発生した熊本地震では、停電などによる地下水くみ上げ不能が市民生活に著しい影響を及ぼした。本市でも約52・2パーセントの市民が地下水に依存しており、同様の窮地が懸念される。非常時に使用可能な手押しポンプの実態把握や、民間井戸の災害時活用に向けた協定締結の考えはないか。

答

停電時の応急的な生活用水の確保策として、手押しポンプが有効であることは認識している。市が設置・管理する防災井戸は49基あるが、いざというときのため、一般家庭や民間企業が保有する井戸・手押しポンプの設置状況について、被災地の事例を踏まえ、効率的かつ網羅的な情報収集と調査方法の検討を進めたい。

民間井戸の活用に関する所有者との協定については、衛生管理面や権利上の課題もあるため、他自治体の事例も参考に検討したい。今後とも熊本地震の教訓を踏まえ、地下水を含めた生活用水の確保や上下水道の耐震化など、水関連インフラの強靱化に努めたい。

市内に存在する眠れる人材の活用を！



柳原 政彦
議員
西条自民クラブ



問

本市の高齢化率は約33パーセントに達するが、有効求人倍率は1・33倍と人手不足が深刻化している。一方で、出産・育児などで一時的に職場を離れた女性や定年退職した高齢者など、活用されていない人材が存在する。こうした眠れる人材を活用するため、どのような支援策を検討しているのか。

答

眠れる人材の活用は、企業の人材確保のみならず、地域活力の向上にも資する取組である。現在、株式会社西条産業情報支援センターのまちの人事部において、働きやすい職場環境づくりや採用力向上を支援するとともに、産業雇用安定センターなどのネットワークを活用し、女性や高齢者を含む多様な人材のマッチング支援に取り組んでいる。また、地域産業などの人事担当者ネットワーク、西条人事部水の会の活動などを通じ、シフトや業務の細分化、キャリアアップ対策、職場見学などの可能性把握に努めるとともに、先進事例も参考にしながら、本市の特性を踏まえた支援策の検討を進めたい。

西条市の未来を担う

高校をどう守り育てる？



真鍋 顕伸
議員
夢みらいクラブ



問

県立高校の再編は、本市の教育だけでなく産業や農業、人口減少対策にも関わる重要な課題である。市内高校の生徒や保護者、地域、産業界などの意見を集め、本市が必要とする高校の将来像を県へ具体的に提案する考えはないのか。

答

高校は本市の将来を担う若者を育み、卒業後は農業、ものづくり、建設、福祉、サービス業など地域の基幹産業を支える人材を育成するたいせつな場であり、現在、県が策定中の愛媛県県立学校振興計画後期計画の内容は最重要課題の一つと認識している。本市の高校には、農業DXや商品開発、情報科学、社会共創など他市の高校に引けを取らない特色ある取組と高いポテンシャルがある。今後は、市内高校の生徒などから多様な意見を広く集め、本当に必要とする高校の将来像や具体的な意見・要望を、地域協議会や県教育委員会に対して強く提案していきたい。また、高校生の自由な発想や挑戦を応援し、本市の新たな可能性につなげたい。